

第6学年 体育科学習指導案

令和元年12月17日(火) 6校時

1 単元名 器械運動「マット運動」

2 単元設定の理由

◎そう思う ○どちらかといえばそう思う	△どちらかといえばそう思わない ×そう思わない	◎	○	△	×
体育が好き		20	7	7	2
マット運動は役に立つ		7	20	8	1
マット運動が好き		8	14	11	3
マット運動で、技がうまくできるように練習した		4	23	8	1
体育の授業でコツやポイントを友達に伝えている		4	13	14	5
体育の授業でコツやポイントを友達にアドバイスしてもらっている		5	15	14	2
体育の授業でうまくできるようになるためにコツやポイントを考えている		6	15	13	2

本学年の児童(男子16名、女子20名 計36名)は体を動かすことが多い児童である。休憩時間にはキックベースやおにごっこをして遊ぶ姿が見られる。運動やスポーツの習い事をしている児童も多く、日常的に体を動かす機会が多い一方で、外遊びや運動を好まない児童もおり、運動経験や技能面で大きな差がある。「体育が好き」、「マット運動が好き」、「マット運動で、技がうまくできるように練習した」の質問項目では肯定的に回答している児童が多数おり、全体的に高い関心・意欲を持っていることが分かる。

日々の学習の中で、本学年の児童は話し合いや教え合いの機会を多く取るようにしている。しかし、体育の授業の中でコツやポイントを友達と伝え合っていることや、うまくできるようになるための方法を考えていることについては肯定的評価の数が少なくなることから、体育の授業時間内での「関わり合い」という面では課題がある。

本単元は、学習指導要領B器械運動系の

<p>(1) 知識及び技能 ア マット運動では、回転系や技巧系の基本的な技を安定して行ったり、それらを繰り返したり組み合わせたりすること。</p> <p>(2) 思考力・判断力・表現力等 ・ 自己の能力に適した課題の解決の仕方や技の組み合わせ方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。</p> <p>(3) 学びに向かう力、人間性等 ・ 運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動したり、仲間の考えや取り組みを認めたり、場や器械・器具の安全に気を配ったりすること。</p>
--

を受けて設定されている。さらに(1)の解説では、「マット運動ではその行い方を理解するとともに、自己の能力に適した回転系や技巧系の基本的な技を安定して行ったり、その発展技に取り組んだりすること。また、選んだ技を自己やグループで繰り返したり、組み合わせたりすること。」と書かれている。

また、運動の特性として、回転したり、支持したり、逆位になったりするなどの技に挑戦し、その技を

身に付けたときに楽しさや喜びを味わうことのできる運動であること、より困難な条件でできるようになったり、より雄大で美しい動きができるようになったりする喜びも味わうことのできる運動であることがあげられる。

指導に当たって、本単元では、基本技と発展技とを児童に認識させて学習を進めていきたい。前転及び後転を基本技とし、とび前転、開脚後転、伸膝後転、側方倒立回転、ロンダート、倒立前転を発展技として設定する。まず、授業の始めにウォーミングアップとしていくつかの慣れの運動と基本技となる前転及び後転を繰り返し行う。こうして1人1人の基礎的な動きと、回転したり支持したりする感覚を高めるとともに、小グループで繰り返し同じ動作を行いながら楽しく運動することでマット運動への恐怖心・苦手意識をなくしていくことができるだろう。次に美しく、雄大な動きへとつなげていくために、慣れの運動時より、一つ一つの動作後に静止することや、大きく動作をすることなどを意識させたい。ウォーミングアップ後には、全体で技のポイントやコツを確認し、児童に他者や自分の動きを評価するための視点を与えることで、児童同士が動きを確認し合いアドバイスを送りあうなど関わり合いを生むことができるだろう。しかし、児童のみで瞬時の動作を見抜き、的確にアドバイスをしたりすることは困難であると考えられる。そこで、タブレット端末を各練習場所に配置し、撮影及び動作確認を行いながら自分の課題や他者へのアドバイスなどを見出しつづける環境を整えながら学習を進めていく。毎時間このような指導を通して、楽しく意欲的に技術を高め、友達と豊かに関わり合うことのできる児童を育成したい。

3 単元目標

様々な動きに取り組んだり、自己の能力に適した技や発展技に挑戦したりする。

4 単元の評価規準

○マット運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解するとともに、自己の能力に適した回転系や技巧系の基本的な技を安定して行ったり、その発展阿波座に取り組んだりすることができる。また、選んだ技を繰り返したり、組み合わせたりすることができる。

【知識・技能】

○自己の能力に適した課題の解決の仕方や技の組み合わせ方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。

【思考力・判断力・表現力】

○マット運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動したり、仲間の考えたや取り組みを認めたり、場や器械・器具の安全に気を配ったりできる。

【学びに向かう力、人間性等】

5 単元の流れ及び評価の計画

		1	2	3・4	5	6	本時 7	8	9
主なねらい		自己の課題を発見する。 学習の進め方を知る。	基本的な技が安定してできる。	基本的な技の質を向上し、発展的な技への見通しを持つ。	発展技に挑戦し、自身の能力に適した技を見つける。	技のポイントを整理し、他者に伝える。発展的な技を安定して行うことができる。	技のポイントを整理し、他者に伝える。発展的な技を安定して行うことができる。	自己の適正に合わせて技を組み合わせ、発表に向けた練習を行う。	自己の適正に合わせて技を組み合わせ、発表を行う。
学習内容		・学習のルール・進め方について知る。 ・器具の準備・安全について知る。	・基本的な技の練習をする。	・基本的な技の確認・練習 ・発展技の導入	・発展技の確認・練習	・発展技の確認・練習 ・ポイントの学び合い	・発展技の確認・練習 ・ポイントの学び合い	・技の組み合わせを考える ・発表練習	・組み合わせた技の発表
学習活動		・目標設定 ・オリエンテーション ・やってみよう	・ウォーミングアップ ・後転 ・前転 ・開脚前転 ・開脚後転 ・振り返り	・ウォーミングアップ ・後転 ・前転 ・開脚前転 ・開脚後転 ・振り返り	・ウォーミングアップ ・側方倒立回転 ・伸膝後転 ・倒立前転 ・振り返り	・ウォーミングアップ ・側方倒立回転 ・伸膝後転 ・振り返り	・ウォーミングアップ ・倒立前転 ・振り返り	・ウォーミングアップ ・組み合わせを考える。 ・発表練習 ・振り返り	・ウォーミングアップ ・組み合わせ技発表会 ・振り返り
評価の計画	知	①	②	①②	③	②	②		④
	思					②	②	①	
	主	①④	②	③					

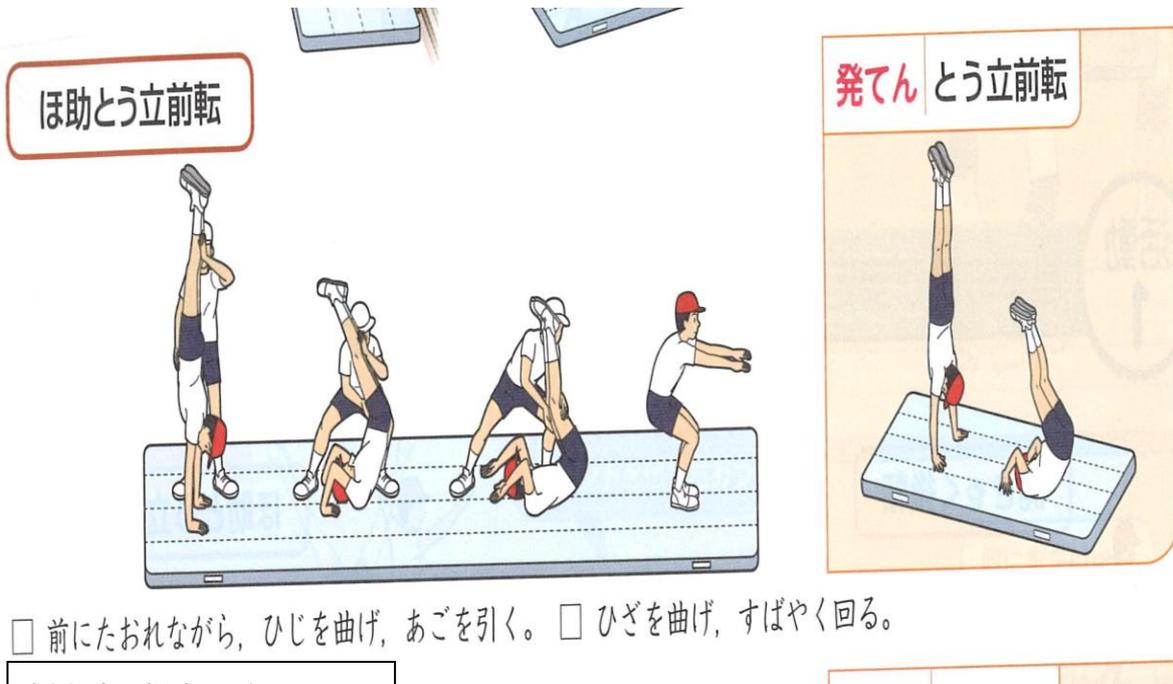
具体的な評価規 準	知識及び技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
	①マット運動の行い方を理解している。 ②自己の能力に適した回転系や技巧系の基本的な技を安定して行うことができる。 ③回転系や技巧系の発展技に取り組むことができる ④自分で選択した技を繰り返したり、組み合わせたりすることができる。	①自己の能力に適した課題の解決の仕方や技の組み合わせを工夫している。 ②自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	①マット運動に積極的に取り組もうとしている。 ②ルールを守り、協力して運動しようとしている。 ③仲間の考えや取り組みを認めようとしている。 ④場や器械・器具の安全に気を配ろうとしている。

6 本時の学習(6/8)

学習のねらい

- ・自己の能力に適した補助倒立前転・倒立前転を安定して行うことができる。(知識及び技能)
- ・自分や他者の動きを見て考えたことを伝えている。(思考・判断・表現)

※補助倒立前転のポイント



- 前にたおれながら、ひじを曲げ、あごを引く。
- ひざを曲げ、すばやく回る。

倒立時、視点は手のひらを見る。足はピンと伸ばす。

場の設定

